

悪石島での離島巡回歯科診療同行実習を終えて

4307100390 日田 麻衣子



2012年6月15日～17日、十島村悪石島への離島巡回診療に同行させていただきました。悪石島は、鹿児島市から南に約300kmの鹿児島県鹿児島郡十島村に位置し、鹿児島市からはフェリーで11時間のところにあります。

今回の巡回診療スタッフは、歯科医師・衛生士・研修医それぞれ2名ずつ、歯科医師会の運転手兼事務の方1名、私たち歯学部学生2名の計9名で、15日金曜日の夜にフェリーに乗り、悪石島に向けて出発しました。11時間船に揺られ、翌日16日土曜日のお昼頃、島に到着し、14時から診療を開始しました。

診療はこじか号と島のコミュニケーションセンター内に設置したユニットの二つを利用し行われ、まずは島の唯一の学校である悪石島小中学校の生徒、計7名を対象とした歯科検診を実施しました。

学校の先生に引率された小学2年生から中学3年生までの生徒を小児歯科の伊藤先生が診察されました。どの生徒も行儀よく、やや緊張した面持ちで待っていた姿が印象的でした。

歯科医師が常駐していない島であるので、子供の口腔環境はあまり良くないのではないかと不安に思っていました。口腔内は良く磨けており、齲蝕が特に目立つ子供もおらず、比較的良好な口腔環境であると感じました。なかには治療が必要な子もいましたが、それでも小さな齲蝕であったり、経過観察程度の齲蝕でした。要治療となった生徒には、検診後こじか号でCR充填を行い、さらに第一大臼歯萌出がみられた生徒には予防充填を行いました。

また、小中学生という年齢は、乳歯の脱落と永久歯萌出の時期にあたるため、咬合状態も重要な検査項目でした。わずかな検



センター内に設置したユニット。ライトは暗く、ライト付きミラーを用いて診療を行っていた



ポータブルタイプのエンジンやバキューム

診時間内で第一・第二大臼歯萌出の状態に注意しながら、咬合状態の確認、また付き添いの保護者の方から咬み合せに関する相談を受けることもありました。離島という歯列矯正治療を行うことが困難な状況であるため、半年に一度の巡回診療が児童の口腔環境の維持にいかに重要であるかがよくわかりました。

続いて15時から成人を対象とした診療が始まりました。コミュニケーションセンター内では冠ブリッジ科の村口先生が義歯調整を、また村口先生の指導のもと研修医の先生が義歯調整をされることもありました。一方、こじか号では主に保存治療が行われました。こじか号にはレントゲン撮影の設備が整っており、医療面接後、必要な部位のデンタルを撮影し、検査・診断後、CR 充填や感染根管治療、また暫間的補綴治療を行いました。決して広くはない車内での治療は必要最低限の器具しかチェアに出せないため、必要に応じてすばやく器具出しをされる衛生士さんの役割が大変重要だと感じました。



今回の離島実習では、診療にわずか一日しか参加できませんでしたが、離島診療の意義、そして重要性を知ることができました。また、限られた設備・時間・環境でどのようにして効率的に診療を行うのかなど、大変勉強となりました。これらは普段の大学病院の外来での実習では決して学ぶことはできないことであり、このような経験を与えて頂き、とても感謝しています。ありがとうございました。

